



ムーダン考—その一

李起昇

力を発揮するかというのと、失くなったものがどこにあるかを言い当てたり、ご先祖様を呼び出したりする。また、未来の予言もある程度できる。

韓国の舞踊はムーダン(巫女)と深い関係にある。韓国では今もムーダンが健在で、何かあればムーダンにお伺いを立てたり厄払いをして貰う人がいる。在日の二世以下のものでムーダンに占って貰ったり、厄払いして貰ったりする者が居るほどである。

ムーダンには世襲のものと、そうでないものがある。そうでないパターンでは、時には男性も啓示を得るが、多くは普通の女性が啓示を得て、ムーダンの女性になる。日本ではまれにしかないことだが、韓国では日本以上の頻度でムーダンになる者が現れる。韓国文化が韓国のムーダンを作っていると言えるのだから、韓国文化の何がその原因かは、更に研究を進めたいと思っている。今回はムーダンの不可思議についての話である。

ムーダンが簡単に言うと、超能力者である。どのような超能力

を発揮するかというのと、失くなったものがどこにあるかを言い当てたり、ご先祖様を呼び出したりする。また、未来の予言もある程度できる。

普通の人がムーダンになるときは、共通のパターンがある。先ず死んだ人の霊がつく。それがムーダンの主神となる。次いで食性が変わる。ムーダンその人が鳥になったような食性になる。肉は食べず、米を生そのまま食べるようになる。わずかの例外を除いて、殆どのものはセックスをしなくなる。セックスをすると穢れ、ムーダンとしての能力が落ちると考えている。霊性を保っているムーダンの下に亡くなった人と交信したい人が来ると、ムーダンはお祈りをして、その亡くなった人の魂を呼び出す。お告げは鳥の声として届けられる。

あゝ世の存在は信ずるものにしてしか受け入れられないが、死者との交流や失くした物の発見や予言は、これは科学的に理解をすることができず。

人間の脳には、微弱ではあるが電流が流れている。電流が流れば必ず電波が発生する。この電波をキャッチし、解読することができれば、相手の人が考えていることや記憶を見ることができる。ムーダンはこのような電波をキャッチできる非常に感度の良い受信機を持った人である、と考えれば納得のいく説明ができる。

例えば何かを失くしたとする。本人は失くしたという記憶はあるのだが、どこで失くしたかは、忘れていた。しかし無意識には、どこで失くしたという記憶は残っている。ただ、その記憶を意識の上に引き出せないだけである。ここで感度良好の受信機を持ったムーダンが登場する。ムーダンはその人の無意識の情報をキャッチして「失くしたものは何で、どこにある」と告げる。事実その通りに失くしたものが出て来る。びっくり仰天という訳である。

亡くなった人を呼び出して貰うのも、同じ事である。その人の生前の記憶は全て依頼者の脳の中に残っているから、ムーダンはその情報を読み取って、本人しか知らないようなことや忘れたことまで話すことができる。

それで依頼者はあたかも死んだ人があの世からやってきたような錯覚を覚える。

予言もまた同様である。一定の条件下では、一定の良いことや悪いことが起きる。本人はその情報を持つているから、誰それから害を受ける、あるいは願いはかなう、ということが言えるようになる。

全ての情報は依頼者が持っている。ムーダンはただそれを受信して言葉で表現しているだけ、というのが科学的なムーダンの理解である。

本人が知らないようなことまで言い当てられても、それは本人の無意識に隠れ込んでいる情報だと理解すれば、あり得る話だと思える。が、しかし、これはあくまでも仮説であっ



て、現在の科学レベルでは真偽の確かめようがない事柄である。昔の人はこのようなムーダンを畏れ敬った。そして祖先を呼び出してはその魂と交流をした。その時ムーダンが、気持ちの高めたり集中するために踊った踊りやリズムが韓国舞踊の重要な要素となっている。舞台芸術化した踊りには、呪術性や神懸かり的な要素はなくなってきたいるが、死者との交流に全神経を集中したムーダンのあり方は、踊りを踊る上での参考になるのではないかと思う。

科学がどれだけ進歩しようと、死者と交流したいという思いまでは分析できないだろう。踊りは、先ずは思いで踊るものである。技術は思いを補完するものであり、思いを表現する手段ではない。技術は科学だが、思いはどこまで行っても思いである。

何かをする人は必ず何かに出会える

NPO現代座 大畑 孝子^{よしこ}

「さんねん峠」に出会って23年の月日が流れました。うた芝居という、アコーディオンの生演奏に合わせて歌い演ずる形式の舞台ですが、初演の時はボソンのことも知らず、素足にくつをはいて、恥ずかしいことです。

41年前、19才の大学生だった頃、ある集会で観た在日の方の民族舞踊の美しさに、私は心を奪われました。女子寮の演劇祭に台本を頼まれた私は、若気の至りで何と「チョゴリ」という創作劇を書いたのです。在日の少女が、差別をさける為に、祖母のすずめるチョゴリの袖も通さずにしたのが、ある日観た舞踊の素晴らしさに、民族の誇りを取り戻すという内容でした。毎晩集會室で稽古をしました。

心配そうに稽古をみているメンバーの中に、劇中の踊りを教えて下さったチマチョゴリ姿の在日の方がいました。演じ手たちは緊張していました。在日朝鮮人として生きてこられた女性の前で日本人が「チョゴリ」を演じるのですから…。

ドキドキしながらも稽古はすすみます。タンスをあけ、チョゴリを出そうとするおばあさんに、主人公の少女が「やめて！」と叫んだその時です。私の横で彼女はポトポトと涙を落とされたいのです。部屋の中の空気はピーンと張りつめ、「劇」はいつのまにか「劇」でなくなっています。

した。

「あつたよ明日が本番という日、ある友友から出された意見に私は頭をかかえました。差別している側の日本人が、本当にその痛みをわかって演じられるのかというのです。中止すべきじゃないかというところまで追い込まれた私は、朝一番の電車で彼女に会いに行き相談しました。彼女はこう言われました。

「確かにそういう面はあるし、ここはちよつと違うなと思うところもある。でも舞踊や衣装など見たこともない多くの日本人に、それを見てもらうだけでも意義がある。ひとつの案として、劇が始まる前に、何故このように多くの在日の人々が日本に住んでいるのか、そのいきさつを紹介したらどうだろうか」

私はすぐに寮に戻り友友たちに報告、さっそく最後の稽古にとりかかりました。かなり長めのナレーションのあと演じられた「チョゴリ」は最優秀賞をもらい、涙にぬれた目の学友たちが私の手を握ってくれたのです。そんな体験が元になり、私は4年通うはずの大学を2年と3ヶ月でやめて東京の劇団に入りました。

数年前に、踊りを教えてくれた女性と再会しました。彼女は言いました。「よく36年続けてこられましたねエ」

私は彼女の名前を呼び、「あの時の涙が私の人生を変えたのですよ」と言っていました。彼女は言います。

「あの少女は私そのものだったのかもしれないね。私、アポジにもオモニにも死んでもらいたいと思ったことがあったんです。ひどいでしょう。私は日本人に見せようと思ったら見せられる、でも二人はどこから見せられる、二人がいなければいじめられないのに、と思ったんです。でもいろいろ勉強して、自分がいかに生きるべきかわかり始めた時、朝鮮舞踊を見ました。鳥肌がたつほど感動して、踊りたいと思っただけです。父母には反対されましたが、歌舞団に入りま

した。あの頃は、苦しい事もつらいことも皆楽しいと思える、純粹で幸せな毎日でした」

36年たっても変わらない、美しい面差しで彼女は、そう話して下さいました。

劇団員同士で結婚した私は36歳で出産、母親となりました。幼い子どもがいては旅公演も営業活動もできません。そこで母親劇団員たちと話し合っ

て、人形劇や児童劇の班をつくりました。それぞれに幼い子どもを抱えての活動はやはり大変で、日々壁にぶつかる事ばかりでした。そんな中「さんねん峠」に出会った

のです。李錦玉先生作の「さんねん峠」は、民族色豊かで愉快で楽しいお話でした。私の中にあの「チョゴリ」の日々がよみがえりました。そしてどうしても演じたいと思ったのです。

私は「さんねん峠」に出てくる、とんちのきく少年トルトリの役が大好きで、15年近くも演じ続けていました。ですが、月日の流れは残酷なもので鏡と相談の上、少年役はもうやれないな…と思い始めた折り、続けて公演の依頼がありました。お受けするかどうかが悩みました。その時パツと頭に浮かんだのが趙寿玉さんだったのです。水道橋の喫茶店で台本を開き、頼み込みました。彼女は言います。

「私は演ずるのは絶対に無理。でもうつつつけの人がいるよ」と紹介されたのが柳京華さんでした。そして寿玉さんも一緒に参加して下さい、チャングでずつと舞台を支え続けてくれたのです。舞踊家趙寿玉であるのに、ずつと座ってアコーディオンの生演奏に合わせてチャングを打ち、舞台を白葉漬けからおいしく酔ったキムチの味に変え続けてくれたことに、私はどれだけ勇気づけられたか知れませ

ません。これまでに7年の間に、東京、北海道、山形、神奈川、八丈島、北陸、京都、大阪、沖繩の小学校や親子劇場で演じてきました。

残念ながら京華さんは事情をかかえ、やれなくなりましたが、今は曹和仙さんが流れるような足さばきで加わってくれています。(アンケートより)

「歌、踊り、楽器演奏とどれもすばらしく、時間があつという間に過ぎました。子どもたちも目を輝かせてみていました。」「朝鮮半島の文化、人情、生活にふれました。人間はどこに住もうとど同じです。韓国の衣装(足もとと髪型)にも親しみを感じます。」「特に踊りの優美さは息をのむほどです。本物に出会わせてくれたことに感謝します。」

どこまで知っているのかという問いかけは、これからも私の中にあり続け、終わることはないでしょう。

私はオーブニングのコヒャンエポム(故郷の春)の踊り始めが大好きです。何故だか涙がにじんできます。目の前の踊りに心奪われながら、同じ舞台上に立てた日々の幸せを感じるのです。

表題の言葉は、趙寿玉さんが以前に言った言葉です。



長い一日

李貞恵

2007年6月22日。静岡韓
国青年商工会の総会後に公演が
ある日。早朝4時に目が覚める。

さまざまな考えが頭に浮かぶ。
チョックトリは入れたかしら？
いや朝晩の食事を早く作らなき
や。プチェは落とさずちゃんど
開いて踊れるかしら？ 洗濯物
は入れといた方がいいかしら？
五方舞のビニョはどうするんだ
っけ？ 冷蔵庫にビール入って
いるかしら？ ポソンは余分に
入れたかなあ。10時50分の新幹
線だから家を8時半に出れば間



に合うよね。あつ、ご飯のタイ
マーを何時にセットしたらいい
のかしら？……
ベッドの中で一気に不安が押
し寄せて来て緊張と焦りで体が
汗ばんできました。

長かった一日を思い返してみ
たら朝からいろんな考えや不安
があっただけれど、公演に参加出
来た事に改めて感謝しています。
舞台の数だけ反省がある、

反省の数だけ成長がある、

反省はするが後悔はしない。

……誰かが言った言葉です。

失敗は無数にあっただけれど後悔
はしていません。今日は舞台で
はなく会議室での公演。客席と
出演者の距離が近いため私達の
額に浮かぶ汗までもがはつきり
見えるだろうし、息づかいも呼
吸も感じ取られた事でしょう。私
達のつたない舞踊を観て喜んで
くれただろうか、記憶に残らな
いまでも一瞬でも心癒せただろ
うか。

帰路に着いて又いろんな気持
ちが交差します。失敗するかし
ないかは問題ではなく、自らが
気持ち良く、心良く踊れたら観
客も気持ち良く心良く楽しいの
でしょう。

一人で練習する時はうまくい
く所も先生や人がひとりでも見
ていると緊張しコチコチになる
のはチュムパンのみなさんは経
験済みでしょう。でもこれから
は考えを少し変えてみようと思
うのです。

納得出来ない自分のまま人の
前で踊る怖さはいやという程経
験したけれど（見ている人から
気をもらう。それ故、自身の気
を感じ取る。……）と思う事で気
持ちが和やかになり、心癒され
るでしょう。

もうひとつ、今回私は初めて
貴重な体験をしました。プクチ
ュムの伴奏です。プクチュムの
順番が分かっていたれば大丈夫
夫だと軽く考えていたのは
大きな間違いでした。何時
もチュムパンの踊りの伴奏
をしてくれていた楽士達の
助言は、無知で無力な私に
十も百も教えてくれたよう
です。音で舞い手をいくら
でもリズムに導く事が可能
な事、そのために舞い手の
呼吸を細かく感じ取る事。楽
士が踊り子の動きや呼吸を
つかみ自分の呼吸をいかに
踊り子に伝えるか、そんな
気の使いようが初めて楽士
の立場に立って見てすこし
分かったようです。

20時終演。21時の新幹線
に乗るため、余韻さめやら
ぬまま静岡の街へ出る。や
や生ぬるい風にほてった身
体がゾクッと反応し街が一
瞬艶めいて見えた。

出演者と演目は以下の通
りでした。

■ 出演者

趙寿玉 朴根鐘

李ヤンジャ 辛錦玉 李貞恵
金玫 朴信江 林鮮玉

■ 演目

1. 五方舞（オーバンチュム）
2. 大琴散調（テグムサンジョ）
3. 杖鼓舞（チャングチュム）
4. 扇の舞（プチェチュム）
5. 鳥打令（セタリョン）
6. 太鼓舞（プクチュム）



韓国舞踊との出会い

森 眞理

この世には縁というものがある!? 後から思い起こせばあれが縁かな? このような経験は誰でも何回かは在りますよね。

韓国語教室(ポンソンファ会)の友達から、高麗博物館の文化講座が今年の2月24日あるから行きませんかとの誘いで、韓国のかの字でも理解できればと、軽い気持ちで行ったのが「行きはよいよい、帰りは怖い」のような言葉のように、踊りをみている時から見終わった今でも私の心の中は嵐の中にいるにもかかわらず、嵐の風が心を癒し、雲海の中に体を漂わせている。なんと表現していいのか? 韓国舞踊を見ている時の私の顔は、多分、鳩が豆鉄砲をくらった顔。想像できますか? 胸が熱くなる。恋心? 美しすぎて怖いもの見たさ、どのように言えばよいのかわかりません。今思えば、生(命)に対する尊敬、生きると叫んでいるように感じました。

4月には、誘ってくれた友達と初めて韓国旅行にも行きました。そして、韓国語教室で知り合った矢野陽子さんの紹介で、5月にはなんと趙寿玉先生のチュムパンの会に行きました。今の私の心境を少し、筑波山「ガマの油」状態ですから何か月後には油がなくなっているはずですが、ですよね。甘い考えは止めます。何年後には、重たい足が軽々と基本ができている夢をみられるようにがんばります。

文化講座で何を見たのか、演目を以下に記します。

- 1 独唱「咸陽養蚕歌(ハミヤン ヤンジヤムガ)」、「珍島(チンド) アリラン」
- 2 独舞「唱夫打令(チャンブタ リョン)」
- 3 独舞「京畿巫俗(キョングム ソック)サルブリカラック」
- 4 ヘグム独奏「山念仏(サンヨムブル)」
- 5 独舞「伽倻琴南道(カヤグム ナムド)サルブリカラック」
- 6 群舞「夢錦浦打令(モングム ボタリョン)、陽山道(ヤン サンド)」

以上です。縁の赤い糸を大切に、皆様にめぐり遭えたことに感謝します。



◎活動報告

- ◎ 2007年6月22日(金) 静岡青年商工会総会にて公演
演目は五方舞、チャンゴチュム、プチエチュム、鳥打令、太鼓舞。
- ◎ 2007年7月29日(日) スタジオカンテイナ発表公演
「バックナーレ」に出演
サルプリ舞―故宋和映先生に捧ぐ―

◎今後の予定

- ◎ 2007年9月7日(金) 大阪柳会 宋和映先生追悼公演に出演
エル大阪にて 午後7時より
連絡先 06-6781-7311 韓国伝統舞踊柳会
- ◎ 2007年9月20日(木) 神戸慶光寺 午後3時より
お彼岸の法要 僧舞その他
- ◎ 2007年9月29日(土) 30日(日) <art-link上野―谷中2007>
「舞台にわくわく」出演 国立博物館敷地内
応挙館にて 午後2時より
- ◎ 2007年10月14日(日) 長野国際親善クラブ主催 韓国舞踊公演
国際ホテルにて 午後3時より
善光寺にて 奉納舞 午後6時半より
- ◎ 2007年10月21日(日) 「灌頂(くわんぢやう)」
代々木能舞台(敷き舞台)にて 午後二回公演
- ◎ 2007年10月27日(土) 「青柳会 第29回定期公演」に出演
韓国 普州 慶南文化芸術会館にて
- ◎ 2007年12月4日(日) アジア芸術祭に出演
韓国 国立国楽院 大ホールにて